

津城跡（つじょうあと・第5次調査）

現地調査が終了しました！

先日、無事に現地での発掘調査が終了しました。近隣の皆様にはご理解とご協力いただき、ありがとうございました。今回は北側の調査区と7つの調査区のうち、最も面積の広い調査区について紹介します。

北側の小さな調査区では遺構を見つけることができませんでしたが、ほかの調査区同様に岩田川・安濃川によって運ばれたであろう砂が厚く積み重なっている状況が確認できました。

調査の後半から発掘を開始した最も広い調査区からは、戦後の瓦礫を捨てた穴のほか、江戸時代の遺物を含み、貝や魚の骨を大量に含んだごみ捨て穴と考えられる穴が見つかりました。穴の中には、ハマグリやアサリなどの二枚貝やサザエといった巻貝、魚の背骨など小さな遺物をたくさん含んでいるので、土ごと取り上げて洗浄し、貝や魚の骨を選り分けて持ち帰ります。今後分析することで、当時の食生活を考察する手掛かりになるでしょう。

このほか、陶器の鉢や甕を埋めた穴や、調査区中央には、長方形の溝状に掘ったところに小石を詰め込んだ遺構が見つかりました。溝の中の小石をよけていくと、40 cmほどの石が等間隔に並び、その下には4本一組の木杭を打ち込んだ状況を確認することができました。砂の堆積した上に建てるため、建物が沈まないように基礎作業を念入りに行ったことがよくわかる遺構といえるでしょう。

今回の調査は現地での説明会を開催することができなかったため、後日Youtubeで動画形式の成果報告を予定（今年度内）していますので、どうぞご期待ください。



ごみ捨て穴から出土した二枚貝や巻貝



陶器（常滑焼）の甕が埋まっている穴



調査区中央の建物跡（北西から）

問い合わせ先

〒515-0325

三重県多気郡明和町竹川 503

三重県埋蔵文化財センター

担当：土橋・長谷川

電話：0596-52-7028

Fax：0596-52-7035